

# 令和2年度 逗子市下水道事業会計の 財政状況について

逗子市環境都市部下水道課

## 目次

- ▶ はじめに . . . p 3
- ▶ 収益的収支と資本的収支について . . . p 4
- ▶ 損益計算書について . . . p 5
- ▶ 資本的収支について . . . p 8
- ▶ 貸借対照表について . . . p 9
- ▶ キャッシュ・フロー計算書について . . . p12
- ▶ 経営指標について . . . p15
- ▶ おわりに . . . p21

# はじめに

## 3

- 本市の下水道事業は、令和元年度に公営企業会計へ移行しました毎年、おもに次の財務諸表を作成し、公表しています
  - 損益計算書
  - 貸借対照表
  - キャッシュ・フロー計算書
- ここでは令和2年度逗子市下水道事業会計決算書などから、本市の下水道事業の財政状況をわかりやすくご説明します

まず最初に

4

## 収益的収支と資本的収支について

公営企業会計では、  
損益にかかわる取引（収益的収支）と  
投資にかかわる取引（資本的収支）を明確に区別しています

### 収益的取引

おもに下水道施設を維持、管理するための取引

- 収益的収入・・・下水道使用料など
- 収益的支出・・・人件費、光熱水費、支払利息など

### 資本的取引

おもに下水道施設を整備、改築するための取引

- 資本的収入・・・企業債など
- 資本的支出・・・建設改良費、企業債の償還元金など

# 損益計算書について

5

平成〇〇年度××町下水道事業損益計算書(イメージ)  
(平成〇〇年4月1日から平成△△年3月31日まで)

<b>1 営業収益</b>	<b>61,341,600</b>
下水道使用料	34,575,600
雨水処理負担金	23,049,000
受託事業収益	3,413,000
その他営業収益	304,000
<b>2 営業費用</b>	<b>50,629,100</b>
管渠費	6,161,750
処理場費	18,486,950
受託事業費	3,490,000
総係費	13,565,800
減価償却費	8,146,800
資産減耗費	605,000
その他営業費用	173,000
<b>営業利益</b>	<b>10,712,500</b>
<b>3 営業外収益</b>	<b>1,062,184</b>
受取利息及び配当金	213,140
長期前受金戻入	614,000
雑収益	225,024
<b>4 営業外費用</b>	<b>7,789,700</b>
支払利息及び企業債取扱諸費	7,708,200
雑支出	91,500
<b>経常利益</b>	<b>3,984,984</b>
<b>5 特別利益</b>	<b>70,000</b>
固定資産売却益	70,000
<b>6 特別損失</b>	<b>50,000</b>
減損損失	50,000
<b>当年度純利益</b>	<b>3,984,984</b>
前年度繰越利益剰余金	0
その他未処分利益剰余金変動額	0
<b>当年度未処分利益剰余金</b>	<b>3,984,984</b>

3つの段階で利益を把握  
利益 = 収益 - 費用

## ①営業利益

通常の業務活動の損益の結果が表示されます。

## ②経常利益

通常の業務活動に関する損益に加えて資金調達等に関する損益の結果が表示されます。

## ③純利益

1年間の全ての損益の結果が表示されます。

損益計算書からは、下水道施設を維持・管理するためにどのような経営活動を行いどのような成績だったのかわかります

過去の経営を分析し、将来の方針に役立てることが出来ます

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル（平成31年3月改訂版）」

# 損益計算書を見てみよう

通常の業務活動の成績は、1,177,945千円の営業損失となりました

項目	金額（千円）	項目	金額（千円）
維持管理などにかかる費用	653,659	下水道使用料	703,940
減価償却費	1,330,666	雨水処理負担金	147,453
その他	45,766	その他	753
<b>営業費用</b>	<b>2,030,091</b>	<b>営業収益</b>	<b>852,146</b>

営業収益  
(852,146)

営業費用  
(2,030,091)

営業損失  
(-1,177,945)

プラスなら営業利益  
マイナスなら営業損失  
になります

# 損益計算書を見てみよう

7

営業損失と資金調達にかかる収支などを足した、最終的な経営の成績は105,590千円の純損失（赤字）でした

項目	金額（千円）	項目	金額（千円）
支払利息	42,865	他会計補助金	393,139
その他	11,777	その他	733,858
<b>営業外費用</b>	<b>54,642</b>	<b>営業外収益</b>	<b>1,126,997</b>

営業損失  
(-1,177,945)

+

営業外収益  
(1,126,997)

-

営業外費用  
(54,642)

=

経常損益  
(-105,590)

プラスなら経常利益  
マイナスなら経常損失  
になります

経常損益とは本業以外の収支も含めた成績のこと  
令和2年度は突発的な損益（特別損益）がなかったため  
経常損失がそのまま令和2年度の純損失になります

## 資本的収支について

資本的収支とは下水道施設を整備、改築するための取引のことで決算報告書に載せています

項目	金額（千円）	項目	金額（千円）
建設にかかる費用	449,040	企業債借入	133,500
固定資産購入費	745	他会計補助金	57,799
企業債償還金	433,864	国や県からの補助金	150,292
<b>資本的支出</b>	<b>883,649</b>	<b>資本的収入</b>	<b>341,591</b>

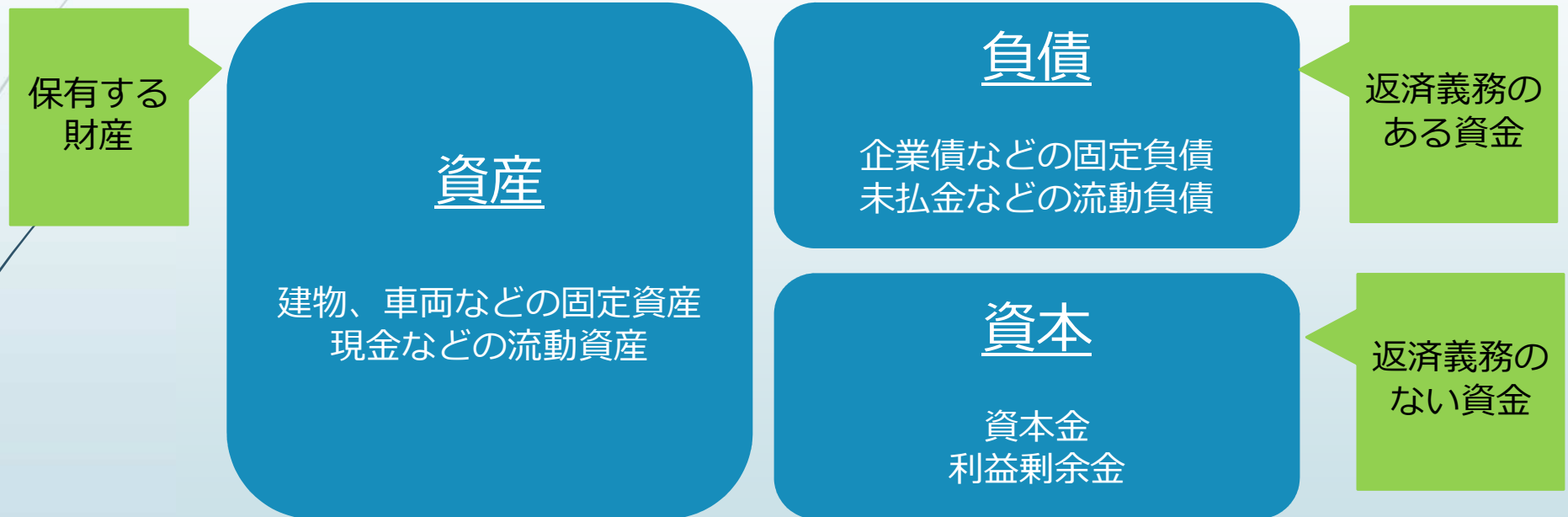
資本的収入と資本的支出との不足分については補てん財源（減価償却費など現金の支出をともしない費用等）をあてています



# 貸借対照表について

貸借対照表とはその時点での資産や負債を表示するもの

《貸借対照表のイメージ》



負債と資本で資金調達し、資産を形成  
 $\text{資産} = \text{負債} + \text{資本}$ になります

# 貸借対照表について

平成〇〇年度××町下水道事業貸借対照表(イメージ)  
(平成△△年3月31日)

【資産の部】		金額	【負債の部】		金額
固定資産		385,647,047	固定負債		158,880,390
有形固定資産		385,085,147	企業債		157,799,790
土地	10,129,998	リース負債		321,800	
建物	70,396,056	退職給付引当金		729,000	
構築物	264,806,815	流動負債		8,910,218	
機械及び装置	41,063,839	企業債		3,007,890	
車両運搬具	2,119,011	リース負債		180,000	
工具、器具及び備品	2,898,130	未払金		3,556,568	
リース資産	1,725,000	未払費用		8,000	
建設仮勘定	0	前受金		32,000	
減価償却累計額	▲8,053,703	買入引当金		90,000	
		その他流動負債		95,000	
無形固定資産	541,900	繰上利益		3,807,000	
借地権	261,600	長期前受金		4,421,000	
地上権	58,600	収益化累計額		▲914,000	
特許権	29,300	債合計		171,597,808	
特許利用権	192,400				
投資その他の資産	20,000	【資本の部】		金額	
投資有価証券	20,000	資本金		197,887,757	
流動資産	20,344,980	剰余金		38,786,632	
現金預金	6,745,284	資本剰余金		32,781,868	
未収金	10,842,998	再評価積立金		32,742,868	
買掛金	▲209,000	受贈財産評価差額		35,800	
貯蔵品	2,919,180	利益剰余金		3,984,964	
前払費用	90,000	減価積立金		0	
		当年度未処分利益剰余金		3,984,964	
資産合計	408,991,997	資本合計		234,424,389	
		負債・資本合計		408,991,997	

**資産の部**  
土地、建物、権利、現金・預金など企業の所有財産が記載されています。

**負債の部**  
企業債など支払義務があるものなどが記載されています。

**資本の部**  
資本金や事業で得られた利益など返す必要のない資金が記載されています。

貸借対照表からはどのような資金調達をいどのような資産を得ているかがわかります

**左半分は「企業の持ちもの」**  
企業の財産がどのような状態で、いくらあるか把握できます。

**右半分は「資産の源泉」**  
企業の財産がどのような財源でつくれたか把握できます。

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル（平成31年3月改訂版）」

# 貸借対照表を見てみよう

11

資産を形成するための財源が負債と資本であり、  
資産 = 負債 + 資本になります

項目	金額 (千円)	項目	金額 (千円)
有形固定資産	14,507,896	企業債	2,363,723
固定資産の合計	14,507,896	固定負債の合計	2,363,723
現金	222,129	1年以内に返済する 企業債	418,119
未収金	148,256	未払金	401,717
流動資産の合計	370,385	その他	5,773
		流動負債の合計	825,609
		繰延収益の合計	6,593,864
		<b>負債の部 合計</b>	<b>9,783,196</b>
		<b>資本の部 合計</b>	<b>5,095,085</b>
<b>資産の部 合計</b>	<b>14,878,281</b>	<b>負債・資本の部 合計</b>	<b>14,878,281</b>

# キャッシュ・フロー計算書について

12

平成〇〇年度××町下水道事業キャッシュ・フロー計算書(イメージ)  
(平成〇〇年4月1日から平成△△年3月31日まで)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	3,984,964
減価償却費	8,146,800
減損損失	50,000
長期前受金戻入額	▲ 614,000
受取利息及び配当金	▲ 213,140
支払利息及び企業債取扱諸費	7,708,200
固定資産除却損	557,000
固定資産売却損益(▲は益)	▲ 70,000
未収金の増減額(▲は増加)	▲ 2,541,898
未払金の増減額(▲は減少)	2,086,074
たな卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 30,959
引当金の増減額(▲は減少)	968,000
その他流動資産の増減額(▲は増加)	▲ 25,000
その他流動負債の増減額(▲は減少)	▲ 10,000
小計	19,978,241
受取利息及び配当金	213,140
支払利息及び企業債取扱諸費	▲ 7,708,200
業務活動によるキャッシュ・フロー	12,481,181
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	▲ 38,398,800
有形固定資産の売却による収入	300,000
無形固定資産の取得による支出	▲ 85,000
一般会計等繰入金による収入	3,500,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 34,661,800
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債による収入	25,000,000
企業債の償還による支出	▲ 3,076,940
リース債務の支払額	▲ 160,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	21,762,260
資金増加額(又は減少額)	▲ 418,359
資金期首残高	7,163,753
資金期末残高	6,745,394

## 業務活動によるキャッシュ・フロー

通常の業務活動の実施による資金の収支や投資活動、財務活動以外の収支が表示されます。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

通常の業務活動の基礎となる固定資産の取得及び売却の収支が表示されます。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

増資、減資による収支や資金調達、返済に関する収支が表示されます。

キャッシュ・フロー計算書とは資金の収支状況を活動別に表示するもので、現金の収入・支出について把握することができます

出典：総務省「地方公営企業法の適用に関するマニュアル(平成31年3月改訂版)」

## キャッシュ・フロー計算書を見てみよう

投資・財務活動によるフローはマイナスでしたが、業務活動によるフローはプラスでした

項目	金額（千円）
当年度純損失	- 105,590
減価償却費	1,330,666
その他	- 738,126
支払利息	- 42,865
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>444,085</b>
有形固定資産の取得による支出	- 228,439
国庫補助金などによる収入	191,288
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>- 37,151</b>
企業債の借入による収入	133,500
企業債の償還による支出	- 433,864
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>- 300,364</b>
<b>資金増加額</b>	<b>106,570</b>

# キャッシュ・フロー計算書の読み方の例

《令和2年度のキャッシュ・フロー》

業務活動	投資活動	財務活動	資金増加額
444,085	- 37,151	- 300,364	106,570

《読み方の例》

令和2年度はここでした

	業務活動	投資活動	財務活動	読み方
パターン①	プラス	マイナス	マイナス	本業の現金出納はおおむね良好 借金を返済しつつ投資も行っている ことが想定される
パターン②	プラス	マイナス	プラス	本業の現金出納はおおむね良好 投資の財源を借金に依存している ことが想定される
パターン③	マイナス	マイナス	プラス	本業の現金出納が厳しい 日常の資金繰りも借金に依存して いることが想定される



# 経営指標について

15

- 経営の現状および課題を把握するために、ほかの団体と比較可能な「経営分析比較表」を作成しています
- ≪経営分析比較表のおもな指標≫
  - 経常収支比率
  - 流動比率
  - 経費回収率
  - 有形固定資産減価償却率
  - 汚水処理原価

※なお、類似団体とは総務省が公表しているもので、本市は以下の区分に該当します

処理区域内人口	処理区域内人口密度	供用開始後年数	同規模団体数
3万人以上 10万人未満	50人/ha以上 75人/ha未満	30年以上	56

## ● 経営指標～経常収支比率～

- 使用料収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度まかなえているかを表す指標
- 100%を下回ると単年度の収支が赤字であり、経営改善に向けた取り組みが必要になると考えられます

	令和2年度
逗子市	94.94%
類似団体平均値	106.67%



## ● 経営指標～有形固定資産減価償却率～

- ▶ 有形固定資産の老朽化度合いを表す指標で、数値が高いほど法定耐用年数に近い資産が多いことを示す
- ▶ 将来の施設の改築（更新・長寿命化）などの必要性を推測することができます

	令和2年度
逗子市	15.54%
類似団体平均値	23.25%

## ● 経営指標～流動比率～

- 短期的な債務に対する支払能力を表す指標
- 100%を下回ると、1年以内に現金化できる資産で1年以内に支払わなければならない負債をまかなえていないということ
- 支払能力を高めるための経営改善を図っていく必要があると考えられます

	令和2年度
逗子市	44.86%
類似団体平均値	67.86%

短期的な支払い能力を改善していく必要があります

## ● 経営指標～汚水処理原価～

- ▶ 有収水量(※) 1 m<sup>3</sup>当たりの汚水処理にどれだけコストがかかったかを表した指標
- ▶ 他団体などと比較してあまりに高い場合には投資の効率化などの経営改善を行う必要があると考えられます

	令和2年度
逗子市	150.00円
類似団体平均値	136.86円

1m<sup>3</sup>の汚水を処理するのに150円かかりました

※有収水量とは、上水道の使用水量など使用料の算定基準になる水量のこと

## ● 経営指標～経費回収率～

- 使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料でまかなえているかを表した指標
- 100%を下回っている場合、汚水処理にかかる費用が使用料以外の収入によりまかなわれていることを意味するため、適正な使用料収入の確保や、汚水処理費の削減が必要と考えられます

	令和2年度
逗子市	72.53%
類似団体平均値	91.14%

100%以下のため、  
汚水の処理が使用料  
でまかなえていない  
ということ

# おわりに

21



逗子海岸の東浜にある石原慎太郎氏の作品が由来の「太陽の季節記念碑」と、海から望む太陽が色鮮やかに描かれたデザインマンホールで、JR逗子駅前にあります

- ▶ 令和2年度には、経営健全化の取り組みの土台とするため中長期的な基本計画である「逗子市公共下水道事業経営戦略」を策定しました
- ▶ 今後とも逗子市の下水道事業にご理解・ご協力をお願いいたします